

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「主な構成文化財の入館者合計数（弘道館、偕楽園、足利学校、閑谷学校、咸宜園、豆田町の入館者合計数）」については、平成30年度までは堅調に推移し目標を達成し、令和元年度以降は、天候等の外的要因という、目標達成に至らなかったやむを得ない理由がある。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「水戸市における地域の文化財に誇りを感じる市民の割合」、「足利市における『国宝や日本遺産、地域の文化財を活用した文化発信事業の推進』という項目に『満足している』と答えた人の割合」は、それぞれ堅調に推移し、概ね目標を達成した。 ■ 一方、「備前市における『歴史文化の活用と伝統文化の継承』の満足度」、「日田市における『咸宜園や豆田町など地域文化に誇りを感じる市民』の割合」は、それぞれ一部指標が欠損している年度があるが、質問項目の改善や、新型コロナウイルス感染症に伴うイベントの中止（アンケート実施不可）という、やむを得ない理由がある。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産での観光振興に携わる民間団体」、「日本遺産の構成文化財の保護や活用などの用途に限定されたふるさと納税の額」、「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」は、目標を達成した。
(4) その他	可	■ 「認定地域内におけるボランティアガイドの活動件数」は、平成30年度までは堅調に推移し目標を達成し、令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休館や、イベントの中止という、目標達成に至らなかったやむを得ない理由がある。
総合評価	可	■ 全体として堅調に推移し、概ね目標を達成した。 ■ 一方、目標未達の項目については、天候等の外的要因や新型コロナウイルス感染症による影響という、目標達成に至らなかったやむを得ない理由がある。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 自立・自走化に向けた財源の一層の多様化が望ましいものの、水戸市によるリーダーシップと構成4市間の明確な役割設定の下、法人パートナーや地域コミュニティ団体との連携を交えつつ、協議会総会・担当者事務連絡会議・専門部会会議を定期開催している他、実務者間での実務協議を随時行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 協議会を中心としたマーケティング戦略－事業計画－収支計画－事業成果把握の連動に基づく、より明確なPDCAサイクルの確立が望ましいものの、所在4県が実施している観光動態調査結果を活動へのインプットにしている他、構成各市の総合計画や観光計画、都市計画等に日本遺産の中長期的計画や目標を記載し、構成4市間や協議会内で情報を共有しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 構成4市にまたがる日本遺産事業を俯瞰的に推進する地域プロデューサーの確保が望ましいものの、日本遺産のストーリーを紹介する観光ボランティアガイドを育成し、観光客に対する体験価値の向上を図っている他、将来的な地域プレーヤー化を目的とした子ども観光ガイドの育成を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 観光客の滞在時間増加に向けて、観光客の動態のより正確な把握と整備計画への反映が望ましいものの、構成各市において日本遺産のストーリーを伝える情報発信センターをそれぞれ設置し、各市の構成文化財の相互紹介を行っている他、各市内において構成文化財の所在や行き方を示すのぼり旗や標識看板を等しく整備・設置しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光客の滞在時間増加に向けて、ターゲットの明確化とマーケティング戦略への反映が望ましいものの、観光モデルコースの作成を行い周遊促進を図っている他、周辺宿泊施設と連携した夜間滞在を促すライトアップイベントの開催・周知と宿泊促進、講堂学習体験や作陶体験といった体験型コンテンツの提供等を通じて、滞在時間・消費額の向上を推進しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 民間企業による提供を含めた小学生への学習教材等の配布、出前授業の実施、小中学生による日本遺産の学習発表やボランティアガイドの実施、子どもを構成他市に派遣する子ども交流事業の実施等、児童生徒を対象とした多様な取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 構成4市による統一的デザインの導入検討が望ましいものの、協議会による独自の日本遺産ホームページを通じた情報発信と掲載内容の定期更新を行っている他、日本遺産構成文化財の魅力を発信する動画をYouTubeにおいて公開しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 構成4市の基本的な連携が図られており、また、ふるさと納税による財源確保をはじめとした自立・自走化に向けた取組が期待できる。 ■ 構成4市の連携による事業推進を念頭に置き、「日本の教育遺産」としての、事業推進や海外を含めた訴求のあり方に関する更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 遠隔にまたがる構成4市間のストーリーのつながりをより明確に訴求すべく、統一感の醸成に向けた取組の更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 協議会の自立・自走化に向け、民間事業者・団体・地域プレイヤーとの連携も含めた活動体制の強化や、財源の多様化を掲げている。 ■ 遠隔4市にまたがる日本遺産事業を俯瞰的に推進する地域プロデューサーの確保について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 民間事業者との連携強化、構成4市間の連携強化について、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ 構成4市の基本的な連携が図られている。 ■ 協議会を中心としたマーケティング戦略－事業計画－収支計画－事業成果把握の連動に基づく、より明確なPDCAサイクルの確立と、同PDCAサイクルを踏まえた、より効果的なマーケティング活動や受入環境整備の推進が望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「日本遺産構成文化財関連施設の観光客入込数」については、目標策定時に関与がなかった構成文化財関連施設への入込人数が含まれているものの、目標を大幅に達成しており、さらに「群馬県に宿泊する外国人数」については令和元年度まで大きく増加し目標を達成できている（R2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成に至らなかったというやむを得ない理由がある）。 ■ 「経済効果」についてはシルク関連産業の発展等により県全体の観光消費額が大幅に増加していることが示された。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「群馬県のことを県外の人に自慢できる県民の割合」が目標に対し未達であった。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「県民・ボランティア団体との協働活動日数（年間）」について、新型コロナウイルスの影響があった令和元年度、二年度を除き全体として目標を達成している。 ■ 富岡製糸場世界遺産伝道師協会による日本遺産のPR活動として、令和元年度においては年間156回の活動実績が示された。
(4) その他	可	■ 「構成文化財を所有する各市町村のガイド人数」について、目標の数値が未達であり、ガイド人数が増加傾向にないものの、当初の3か年は目標を達成しており、次の3年においても、ガイドの高齢化という課題に向き合うべく新たなガイド養成を行うことで体制を維持し、認定当初よりガイド数が増加していることが示されたため、目標達成に至らなかったことにやむを得ない理由がある。 ■ 実績を計測している6団体において、認定後から現在まで活動を継続しており、各地域において民間団体の活動が自走化されていることが示された。
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている、又は、当該目標値を下回るものがあることにやむを得ない理由がある。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 組織体制において世界遺産と日本遺産の違いを明確化することが望ましいものの、群馬県が事務局となり、構成文化財を要する4市町村、関連する民間団体等で協議会を組織化し、「世界遺産」や「ぐんま絹遺産」との三位一体の連携もできており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 戦略立案においても、世界遺産と日本遺産の違いを明確化しつつ、日本遺産のストーリーを伝えるための戦略立案を行うことが望ましいものの、シルクカントリーとして認知されることを進めた上で、日本遺産のブランド化につなげていくことを戦略として掲げ遂行しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域を主導的にリードするプロデューサーの確保が望ましいものの、構成文化財の所在する地元住民を対象にストーリーや構成文化財、絹文化等の講習及びガイドを行う基礎講習を行い、来訪者に対して日本遺産の魅力を総合的に伝える解説ボランティアガイドを育成しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 評価指標を測るための適切な指標設定が望ましいものの、看板等の整備にとどまらず、映像作品の制作や、口頭伝承の資料化に取り組み、解説内容の向上に繋げており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 民間事業者も巻き込んだ取組が望ましいものの、鉄道会社と連携し桐生市、足利市を中心とした日本遺産スタンプラリーを実施するなど一定の取組を実施しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 基調講演、座談会、地元小学生の子ども記者による「ガイドマップ」づくりといった、様々な普及啓発活動を実施しつつ、小中学校、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ユーザー視点に立ったウェブサイトの構築や、SNSの適切な目標値の設定を行うことが望ましいものの、随時情報発信を実施する等一定の取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている、又は、当該目標値を下回るものがあることにやむを得ない理由がある。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 具体的なテーマをもった事業として滞在型周遊観光を設定していることなどから、今後の展開に期待が持てる。 ■ 「かかあ天下」という女性活躍のストーリーを体感してもらう取り組みが計画できている。 ■ 自走化するための財源の確保や地域の一丸化につながる取組が必要。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 協議会に地域連携DMOを追加し、「滞在型周遊観光」を確立していこうという体制がとられている。 ■ ガイドや体験コンテンツを通じて、絹産業を支えた女性たちのストーリーを体感できる体制・仕組みが構築されている。 ■ 「かかあ天下」というストーリーを推進するにあたり、県立女子大との連携や温泉地等との連携も深め、より女性活躍の場が作られることが期待される。 ■ 計画で設定している指標だけでは日本遺産事業の成果の計測ができない部分があり、再考の必要がある。
総合評価	■ これまでの課題と時代の流れを認識した上で、地域リソースを生かしながら具体的に取り組む内容となっている。 ■ 日本遺産のストーリーと通じる、女性たちを主役にするような事業や、シルクに関わる他地域との連携事業についても検討する予定であり、期待したい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「高岡市内施設利用客数」は目標が一部未達の年度もあるが、「高岡市外国人宿泊者数」及び「高岡市宿泊者数」は目標を達成していることから、全体として目標をおおむね達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「高岡の良さを再発見することができたと感じる小・中学生の割合」及び「『高岡が日本遺産のまちであることをすでに知っていたと回答した者』の割合」について、目標が一部未達の年度もあったが、全体として目標をおおむね達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「職人の技術を体験・体感する旅行商品の申込み件数」について、目標設定が低いという状況ではあるものの、大きく目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「高岡市観光ポータルサイトアクセス数」について、目標設定が低いという状況ではあるものの、大きく目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ DMOと連携し、活動が自立、自走できるような取組が必要であるものの、個人/法人サポーターの参画や、候補DMO法人の設立に至っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 認知度調査の実施が不定期となっているため、今後は毎年開催されるイベントの機会をとらえ、継続的に認知度を計測することが必要であるものの、各種媒体を通じたPR活動や普及啓発により認知度向上の取組を継続しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 有償ガイドの育成や、有償ガイドを活用した仕事旅行体験者数も増加しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 各構成文化財や施設において日本遺産のストーリーを伝えるためのハード・ソフト整備を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 産業観光受入対応工場・工房の増加、構成文化財である重伝建エリアでの宿泊施設開業や飲食・小売店等の新規出店が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 児童対象の日本遺産再発見ポイントラリーの実施や、日本遺産サミットを通じた市民への普及啓発活動が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 単に観光ポータルサイトの更新回数を増やすだけでなく、日本遺産に関するバナー設置や、SNSを通じた発信を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 消費額の指標化と、町民文化の高岡らしさ（大阪や江戸等との差異）の追求が望まれるものの、文化資源の持続的活用の仕組みの構築に向けた計画がバランス良く検討されている。 ■ ストーリーを踏まえたビジョンと取組が計画され、事業計画も充実している。これまで中心的に取り組んできた市中心部から、今後は北部エリアへの取組を進めることが示され、大改修工事が完了した重要文化財の勝興寺を中心に、日本遺産ストーリーを伝えるための施策と、観光事業化を進めるための具体策が示された。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 市中心部と北部エリアとの連携が課題であるところ、北部は北前船に関するストーリーでも認定を受けており、2つの認定ストーリーの相乗効果で発展的に取組を進める計画となっている。 ■ 富山大学芸術文化学部と連携し、学生が企画・実施するおもてなしガイドツアーや職人スタンプラリー、オンライン番組の実施を行うなど、大学との連携にも積極的に取り組んでいる。 ■ 構成文化財である重伝建の山町筋や金屋町において、地場の食材とクラフト食器を活用しながら、地域の食文化やクラフトの魅力を発信している。
総合評価	■ バランス良く検討されており、高岡ならではの町民文化を追求していくことを期待。 ■ 伏木・吉久地区のクローズアップについては、小矢部川をはさみ、万葉線と伏木線沿線の交通利便性の確保などの記述が弱く、戦略的に明確にしていく必要があると感じられるものの、戦略の基本方向はとても明確。 ■ 組織としての実行力を高めるため、DMO候補法人（富山県西部観光社）を中心に、歴史・文化資源を活用した付加価値の高い商品の開発を進めることが示された。
評価結果	認定継続（重点支援地域）

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「能登地区の観光客入込数」は設定した目標を達成している。 ■ 「キリコ祭り常設展示施設入館者数」は全体として目標達成しなかったものの、平成29年度にかけた落ち込みが、平成30年度及び令和2年度にキリコ常設施設の設置が進んだ結果、増加傾向に転じていることが示されたことや、新型コロナウイルス感染症の影響により祭り自体が中止となったことから、当該目標値を下回るものがあることにやむを得ない理由がある。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「歴史文化遺産を重要と考える人の割合」等の調査は、2015年と2019年にしか実施されておらず、定期的に数値を計測する方法について検討していく状況である。 ■ 「キリコ担ぎ上げ体験者数」は目標値を下回っている。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「キリコ祭りに係る旅行商品数」は一部目標未達であったものの、当初2年は目標を達成しており、また、「能登地区の農家民宿の数」は一貫して目標を大きく上回って推移している。
(4) その他	可	■ 「キリコ祭りの祭礼数」は全体として目標達成しなかったものの、天候の関係や新型コロナウイルス感染症による影響などでその年に実施できなかったという理由とともに、祭りの担い手を確保するための施策を進めていくという方針が示されたことから、当該目標値を下回るものがあることにやむを得ない理由がある。
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている、又は、当該目標値を下回るものがあることにやむを得ない理由がある。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 広域な地域の利害調整の場として協議会を活用する他、県の更なる役割強化が望ましく、また、DMOや旅行代理店とのさらなる連携強化が望ましいものの、協議会には能登エリア全体をカバーする観光協会が参画しており、事業実施の際には各市町と連携しながら取組を進めていることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 継続的な域内外の認知度調査を実施することが望ましいものの、「石川県長期構想」や、「第2期いしかわ創生総合戦略」において、能登地区の施策の方向性として、交流人口の拡大による観光振興を重要な施策の一つと位置付けたこと等、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域の観光をマネジメントできるようなプレーヤーとして、DMOや外部人材を採用することが望ましいが、地域プロデューサーも精力的に活動しており、各地区の民間団体でキリコ祭りの伝承を目的とした取組も進んでいることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 評価指標である満足度調査が単発調査になっており、また、観光客の滞在時間に関する調査も実施していないことから、継続的な調査の実施が望ましい他、キリコ関連の3施設間の相互連携を進めることが望ましいものの、祭礼解説板の設置やキリコ展示施設の各市町での整備を行っていることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 事業化や商品化を促進する仕組みの構築や、能登半島の回遊性向上に向けた旅行商品化が望ましいものの、モニターツアーの実施や、金沢駅からのツアーバスの運行、和倉温泉宿泊者向けのオプションツアーを実施していることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 今後の祭りの担い手確保を意識した普及啓発活動をさらに取り組んでいくことが望ましいものの、キリコ祭りの担ぎ体験の実施や、子供向けの普及啓発活動にも取り組んでいることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ホームページ・SNSなどの継続的・積極的な情報発信の強化が望ましいものの、HPのユーザビリティの向上や、ツーリズムEXPOジャパン等の出展を実施していることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 交通アクセスに課題を抱える地域ではあるものの、農村地域を宿泊拠点として整備した結果、観光客の受入体制が整ってきており、今後、農泊を一つのツールにすることが明確化されている。 ■ 全体的に調査が実施されておらず、また、日本遺産に認定されたことによる取り組みが不明確である。 ■ 近隣の観光地との差別化や、能登、キリコの魅力を伝えるための、ファン・リピーター・滞在などをコンセプトとした新たな文化観光戦略が必要。 ■ 祭りの開催時期にしばられない活性化事業の創出が課題。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ さらなる観光事業化を推進する体制整備のため、（一社）能登半島広域観光協会を中心に、多数の利害関係者を巻き込みながらマーケティング、観光商品の造成に取り組むことが期待される。 ■ 産官学民を組み込んだ体制により、広く学生層の取り込みが期待できる。 ■ 構成自治体の取組みの一層の連携が求められる。
総合評価	■ 地域の資源を生かした今後のさらなる取組の加速、情報発信、観光事業化が期待できる。 ■ 今後の戦略を立てるにあたっては、継続的な目標設定と調査を実施し、キリコ祭りに限定せず、祭りを頂点とする地域の生業や営みにまで視野を広げ、ストーリーを伝えるための新たな取組やそれを実施する体制について、検討する必要がある。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「日本遺産発信拠点の観光入込数」は、R2年度の新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成に至らなかったものの、R1は98.5%と高い達成率であった。 ■ 「外国人観光客の地域内入込数」は、新型コロナウイルス感染症以前は目標を達成していたものの、R2年度の新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成に至らなかったというやむを得ない理由がある。 ■ 「鯖街道ブランド鯖の養殖匹数」や「文化歴史・産業観光目的の入込数」は、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「住民アンケートによる日本遺産活用満足度を感じる住民の割合」や「小学生への認知度」、「出前講座・出前授業の回数」は目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「事業への協力団体数」及び「主要団体のツアー造成数」は目標を達成している。 ■ 「体制確立ワークショップ実施数」は、新型コロナウイルス感染症以前は目標を達成していたものの、R2年度の新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成に至らなかったというやむを得ない理由がある。
(4) その他	可	■ 「育成コンシェルジュのガイド人数」は、R2年度の新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成に至らなかったものの、R1年度においては80%と高い達成率であった。 ■ 「魅力発信のための独自事業を実施した団体数」は、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている、又は、当該目標値を下回るものがあることにやむを得ない理由がある。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 小浜市・若狭町や株式会社まちづくり小浜（DMO）、若狭湾観光連盟といった産官民により構成される協議会を設け、日本遺産を活用した取組を強力に推進している他、小浜市・若狭町の事務局レベルで、3か月に1回程度、日本遺産に関する連絡協議会を開催し、「御食国」の取組み促進等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ ブランド、地域コンセプトの確立に向けた戦略の検討が望ましいものの、日本遺産の魅力や発信の強化を図るため、小浜市・若狭町歴史文化基本構想を策定した他、更なる文化財の保存と活用の促進に向け、令和2年3月に小浜市文化財保存活用地域計画の策定（同年7月認定）等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 育成したガイド等によるガイドサービスの収益化が望ましいものの、日本遺産のストーリーを紹介するコンシェルジュを育成し、観光客に対し体験価値の向上を図るとともに、立命館大学食マネジメント学部と連携し、学部生を300名/年受入れ、地域プレイヤーのプレゼンテーション能力の向上等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 歴史・文化を伝えるための情報の再整理及び歴史・文化に関する情報提供の更なる充実が望ましいものの、構成文化財に多言語で解説をした説明板を設置している他、エリア誘導と滞在時間の増加に向け、各地にガイダンス施設の整備等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 事業化や商品化等を促進する適切な指標設定が望ましいものの、滞在価値向上を図るためモデルルートを構築し、トレッキング・ドライブ（サイクリング）するためのマップの作成や食文化を浸透させる「小浜よっぱらい鯖」の商品化促進等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産ストーリーの核の一つである鯖街道をテーマとした鯖街道チャレンジウォークを行った他、主要ガイダンス施設である「御食国若狭おばま食文化館」にて、キッズキッチンやジュニアキッチンの開催を通して食育の取組み等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 多様な来訪目的を踏まえた情報の発信が望ましいものの、記事内容と共感数を分析したフェイスブックによる情報発信や、日本遺産に特化したYouTubeチャンネルを開設し、構成文化財に係る修理現場や講演会などの情報を発信し、日本遺産の訴求等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 京都・大阪との距離を踏まえた立ち位置が、歴史のストーリーとのつながりも踏まえて明確になっている。過去6年間の事業実績を踏まえ、目指すべき方向性が明確で、かつ適正な対価を得るというコンセプトの事業化も明確である。 ■ 住民全体がコンシェルジュを目指す人材育成、構成文化財の古民家の宿泊施設としての整備、サイクルツーリズムの促進など、幅広いターゲットに訴求する事業内容である。 ■ 食文化を基軸とした具体的な地域活性化計画が策定されていること、他の日本遺産認定エリアとの連携が計画に組み込まれている。 ■ 小浜市・若狭町を観光交流ハブとしたビジョンや、日本遺産活用の絵姿の一層の具体化が望ましい。 ■ DMOを核とした持続的な取組が計画に落とし込まれているものの、指標の中に、経済的な指標も加えることが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 計画を実行するのに十分な体制の整備と、ふくい観光活性化ファンド（REVIC・福井銀行等出資）からの出資により、財源の確保もなされている。 ■ DMOである株式会社まちづくり小浜を核に、官民一体の運営体制が整備されており、また民間事業主体の立ち上げも順調に進んでいる。 ■ 食文化をテーマにしているため、更なる第一次産業との連携強化が望ましい。 ■ 指標の中に、経済的な指標も加えることが望ましい。
総合評価	■ 文化財保存活用地域計画の10年の長期視点・計画と、テーマ・エリア別の重点的取組、これらを担う民間事業主体の育成が、上手にかみ合っている。 ■ DMOが核となって明確な方針が示されている。 ■ 成功事例として、京都のような観光地までもう1歩のところまできているのではないかと感じられ、更なる向上に努め、成功要因を他の認定地域に横展開するような存在になることが期待できる。

評価結果	認定継続（重点支援地域）
------	--------------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「明和町の観光客数」について、目標を達成している。 ■ このほか、「日本遺産構成文化財への入場者数」を集計しており、当初設定した目標の伸び率を超えて推移している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じている住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標値を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 適切な指標に基づく事業評価に対する認識は十分でないものの、全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 自立自走していくために、民間企業と商品企画等のつながりを強めていくことが望ましいが、一定程度、地元民間企業との連携を進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 今後日本遺産の調査を通じ、より豊かなストーリーにしていく活動を続けることが望ましいが、日本遺産の取組が文化財保護法に基づく文化財保存活用地域計画に記載されているなど日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 過去に単発で実施していたガイドの育成教育のセミナーを継続的に実施し、ガイドのレベルの底上げを図っていくことが望ましいが、斎宮ガイドボランティアが定期的にガイドの研修を重ねており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 史跡への規制があるため、構造物の制約を受けない取組を進めることが望ましいが、案内板・解説板の設置や、復元施設のライトアップなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 明和町内に、観光客の滞在時間を増加させるための施設を構築し、明和町の収益を立てていき、自走する仕組みが望ましいが、モニターツアーの実施やレンタサイクルのシステム構築を進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小学生向けのストーリー解説マンガ本の作成や、斎宮がテーマあるいは史跡内で開催される祭り等のイベントを毎年多数開催しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ プロモーションビデオの作成や、ラッピング車両による情報発信、地元テレビ局との連携で日本遺産認定記念特別番組の制作を実施するなど、各種情報発信の取組みを進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ DMOを中心とした各種イベント、ツアー商品、ガイド、サポーター、人材育成事業、学校教育との連携などの方向性が示されている。 ■ 現地消費額や経済効果を指標化し、今後の収益化に向けた計画の立案が求められる。 ■ 文化財の保護をしつつ、日本遺産を活用した、来訪者の滞留・滞在の長期化および収益化・自走化に向けたビジョンを検討し、DMOと連携することが必要。 ■ インバウンド等に向けて、数よりも質を高めるストーリーの発信とストーリーを体験理解できるコンテンツが整備されることが必要。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMOのほか、商工会、交通事業者、地域事業者等が参画した推進体制となっている。 ■ ふるさと納税では、日本遺産のストーリーと関連付けた返礼品等の検討がされている。 ■ 今後、斎王の生活にまでストーリーを波及させるような、より魅力的なストーリーのブラッシュアップと日本遺産事業との関連付けが必要。
総合評価	■ ターゲットとして若年女性にターゲットを絞った戦略が取られており、ソフト・ハード両面からターゲットを絞った計画をたてられている。 ■ 滞在時に更にストーリーを深く体験・実感できる仕組みの構築が必要。 ■ 地域の来訪者の属性や、満足度などのデータを取得できるような仕組みづくりと、データに基づいた判断を実施できるよう、体制を整えていく必要がある。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「日本遺産関係10市の入込客数」、「日本遺産関係10市の宿泊者数」は新型コロナウイルス感染症による影響があるものの、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 『県政世論調査等における「誇ることのできる文化」のうち、「魅力ある風景」の回答率』は目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連旅行商品」は、新型コロナウイルス感染症による影響があるものの、概ね目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「観光ボランティアガイドの活動者数（淡海観光ボランティアガイド連絡協議会）」は目標を達成している。 ■ 「県内鉄道各社および観光船フリーきっぷの販売数」は、新型コロナウイルス感染症による影響があるものの、概ね目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 自立した収益の確保が望ましいものの、民間を巻き込んだ『日本遺産「水の文化」ツーリズム推進協議会』の設立による、地域の住民や観光事業者等が行う活動の推進の他、地域協議会の設立による各地域における日本遺産を活用した事業推進等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ マーケティング戦略の立案・実行のPDCAサイクルの確立が望ましいものの、旅行商品造成経験者による地域のフィールドリサーチを行い、旅行商品化の可能性について分析した他、留学生による現地調査を行い、外国人旅行者の目線による地域の魅力を確認し、課題の把握等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ ボランティアガイド養成講座を実施し、日本遺産（構成文化財）を訪れる観光客への受入環境の向上を図るため、おもてなし意識やガイド能力の向上を図った他、DMOが地域プロデューサーとして観光キャンペーン「日本遺産 滋賀・びわ湖 水の文化ぐると博」において、調査実績やワークショップ等の成果を基に事業を展開し日本遺産を生かした観光振興等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ ストーリーが伝わる多様な仕組みの整備が望ましいものの、公式HPの告知のため、QRコードの入ったシールを作成し既存看板等へ貼付した他、日本遺産カードを作成し、県内10市34か所を紹介する周遊企画等の各種取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 「水の文化ぐると博」の開催に向けて、日本遺産を巡る旅行商品の造成を図るため、DMOと連携をとり、商談会でのPRや大都市圏の旅行会社等へのセールス等を行った他、観光まちづくりの専門家をコーディネーターとして各地域に派遣し、地域の観光協会や関係事業者を交えたワークショップ開催等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 大学等と連携し、学生自身が日本遺産構成文化財を訪れ調査する「日本遺産滋賀・びわ湖 フィールドサーヴェイプロジェクト」を実施し、若者の目線で感じたことをポスターにデザインした上で、数か所の会場でのポスター展示や大学内での調査を踏まえた展覧会等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイト・SNSなどの継続的・積極的な発信が望ましいものの、日本遺産をテーマとしたデザインのラッピング電車を運行し来訪者へPRするとともに、利用者および周辺住民等に日本遺産のストーリーおよび構成文化財の周知を図る等の取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビワイチを核として各種事業を連携させる取組は評価できる。 ■ 過去6年間で実施してきた事業とそのビジョンを踏まえた展開の計画が必要。 ■ 自転車の周遊観光のための拠点づくりなど、構成文化財の保存と活用の好循環創出や、ストーリーを体感させるための横断的な視点を持った具体的な事業計画の検討が必要。 ■ 事業を継続するために、協議会（連絡調整会議）あるいは各市が自立自走する仕組み構築が必要。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 推進団体は整備されている。 ■ 県と各市、博物館等との連携強化や、民間の参画事業者の明確化と民間の自走に向けた体制が必要。 ■ 食と食文化、ビワイチプラスワンなどの共通事業における10市の個性ある事業とその推進が必要。 ■ 日本遺産事業の成果や経済効果の計測に適した指標が必要。
総合評価	■ 面としてのさらなる取り組み・結束が期待できる。 ■ 協議会等における最大公約数的な事業だけでなく、「構成10市の事業を繋ぐ、事業レベルの連携」という観点からの事業構築・創造が具体化が必要。 ■ 県主導の体制に留まらない、構成各市の積極的な取組（協力）が必要。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「山城地域における観光客入込数」について、目標は未達であった。 ■ 山城地域における観光消費額や宿泊客数、日帰り客数について補足説明が示されたものの、目標値が設定されていないことから、評価指標に代替するものではなかった。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「住んでいる地域（市町村）について個性や魅力を感じている人の割合」について、目標は未達であった。 ■ 地域に精通した通訳案内士のガイド認定やガイド人材育成、子ども向けの普及啓発等にも継続的に取り組んでいることが補足説明されたものの、評価指標に代替するものではなかった。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産の取組全般を継続的に担う組織の確立とそこで実施される事業数」については、目標が一部未達成の年度もあったが、全体として目標を概ね達成している。
(4) その他	-	—
総合評価	不可	■ 目標自体が未設定のものがあり、また、「観光客入込数」や「住んでいる地域について個性や魅力を感じている人の割合」において目標が未達であるところ、評価可能な代替指標として充分とされる評価が提示されなかった。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 関係市町村等と日本遺産を通じた地域活性化状況の進捗や課題を定期的に共有する体制を強化することが望ましいものの、法人パートナー数も増え、取組を先導するDMOの役割は明確であり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ マーケティング調査にかける比重が大きく、より具体的な戦略の立案や戦略の可視化・周知促進の取組が望ましいものの、マーケティング調査を元にした商品造成や戦略の策定が行われており、また、戦略策定のための現状把握や地域活性化の戦略の基礎となる観光戦略は定められていることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーとしてのDMOの更なる活躍が期待される面があるものの、多様なガイド人材の育成や茶産業への新規就農者支援などに継続的に取り組んでいることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 地域資源としての茶文化や茶栽培等構成文化財の保全継承に向けた積極的な取組が望ましいものの、サブストーリーの広がりに向けた取組や基礎的な整備を実施していることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光インフラの強化となる2次交通の整備や商品化の体制が構築され、継続的な商品開発や事業者との連携による観光事業化の推進が行われていることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 定量的に取り組み成果を把握する指標の確立が望ましいものの、地域・民間を巻き込むための普及啓発や児童生徒向けの普及啓発にも継続的に取り組んでいることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 複数手段を用いた発信や頻度高い発信、専門人材の登用による効果的な情報編集・発信などが実施されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ お茶の京都DMOが主体となりマーケティング戦略に基づく取組みを企画し、観光事業としての自立的な発展を計画している。 ■ 「美しい茶畑景観や茶問屋の町並み、喫茶など」の戦略拠点づくりは重要と思われ、茶文化や茶栽培の歴史が地域の住民や子供たちに根付くための取組強化や、茶畑そのものを楽しめる環境整備と具体の事業化に期待。 ■ ビジョンが抽象的で具体性に欠け、情報発信にウェイトが偏っている。認定されたストーリーを伝える施策や、他の茶生産地域との差別化をはかる工夫が必要。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMO、商工会、地域事業者等が加わり、グローバルにも、日本の観光客、地域の方に対しても情報が伝わる体制ができている。 ■ 第一次産業や茶に関連する事業者、建設系など、地域が一丸となって取り組めるさらなる体制整備が必要。 ■ エリア全体の観光統計では、日本遺産事業の成果の計測ができない。
総合評価	■ 旅行会社と茶の生産者・生産組合が連携した事業展開に期待。 ■ 観光事業展開の比重が高すぎるものの、地域資源としての茶文化、茶栽培の活用が取り組まれることに期待。 ■ 日本遺産としてのストーリーが伝わる取組みが今後行われるのが課題。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	「観光客入込数」は毎年増加し、目標を達成している。 なお、評価指標以外のデータとして日本遺産の構成文化財のみに絞った観光客入込数は、H26 148,251人 ⇒ R1 160,888人と増加傾向にある。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	「全児童のうち『市長の学校訪問』で日本遺産に関する授業を受けた児童の割合」及び「市外で日本遺産のPRを行う団体等へののぼり貸出件数」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	「日本遺産のためのふるさと納税額」及び「篠山市の補助金を活用して日本遺産魅力発信推進事業を実施する団体数」は目標を直近では達成していないが、「日本遺産連盟加盟団体数」及び「旅行者による日本遺産めぐりツアーの実施件数（累計）」は目標を達成しており、全体として概ね目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産のためのふるさと納税額の歳入強化が望ましいものの、市民や関係団体等も参画する協議会を毎年度開催している他、民間企業等を主体とした「Masse丹波篠山」の組織化に取り組むなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 地域内外の地域コンセプトの浸透度に関する適切な指標設定が望ましいものの、総合戦略等に日本遺産事業を位置付け取組を推進している他、外国人誘客を目的としたオンライン商談会への参加やマーケティング調査等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 日本遺産のストーリーを紹介するローカルガイドを新たに育成した他、現在はオンラインによるガイドの継続的な研修の実施や、地元住民や学生等を対象にした構成文化財であるデカンショ節の後継者育成等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 観光客の理解の深まりに関する満足度に関する適切な指標設定が望ましいものの、観光拠点として丹波篠山デカンショ館を整備した他、河原町地区および篠山城周辺の無電柱による景観整備や、多言語でVR技術を用いた案内板の設置、日本遺産のPRパンフレットの作成・配布など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 事業化や商品化等による経済効果の適切な指標設定が望ましいものの、大手旅行会社との連携による日本遺産ツアー造成の他、日本遺産の構成文化財を周遊するサイクリングマップの整備等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産事業の成果を図る適切な指標の算出が望ましいものの、日本遺産のストーリーを伝えるための児童生徒向けパンフレット作成の他、日本遺産の理解を醸成するための副読本での学習機会の提供や、市民一体となって構成文化財のデカンショ節を広めるYouTube動画撮影、市内外からのデカンショ節の歌詞募集を通じた普及啓発等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ホームページ・SNSなどの継続的・積極的な情報発信の強化が望ましいものの、観光客誘致のため、YouTuberを活用した観光コンテンツの情報発信や日本遺産の魅力を伝えるホームページの作成等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 日本遺産としての位置づけが明確かつ、取組とそのビジョンが体系化されている。 ■ 地域が一体となった取組が企画されており、また、観光客を増加させるだけではなく、文化財の保存と活用の好循環の創出により、長期的に地域に根差した取組を行う計画となっている。 ■ 自立自走に向けた観光事業化のより積極的な促進が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 観光協会や民間企業等で組織されたMasse丹波篠山の取組推進が期待できる。 ■ 観光と文化財保存継承を両立させる取組体制が整備されている点が評価できる。 ■ 推進委員会の組織力維持と、Masse丹波篠山との連携に関する方策の具体化が望ましい。 ■ 民間事業者とのより一層の連携が望ましい。 ■ 日本遺産事業の成果を測るための適切な評価指標の設定が望ましい。
総合評価	■ 地域の生業、景観などに配慮した持続的なまちづくりが計画されている点が評価できる。 ■ 日本遺産として自立自走に向けた取組の更なる推進が望ましい。 ■ デカンショ節だけではない、多面的な地域の魅力発信が望ましい。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「主要施設（石舞台古墳等5カ所）の観光客数」は増加しており、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じ、ボランティア活動を行う住民の数」は目標未達の年度もあるものの、増加傾向にあり、おおむね目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産に関する観光企画や旅行企画の数」は目標未達の年度もあるものの、増加傾向にあり、令和2年度は目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 協議会の財源確保の強化が求められるものの、協議会を毎年度複数回（定例総会・ワーキング会議・行政ワーキング会議）開催している他、複数の大学や研究所などの学術機関との連携や、世界遺産の協議会とも情報交換等の連携を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 地域計画等に日本遺産事業を位置付け、大手宿泊施設等と連携を推進している他、飛鳥自体のブランド力を活用した日本遺産のブランディングや、観光実態を定量的に把握するための明日香村の観光客を対象とした年2回のアンケート調査等を実施しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域を主導的にリードするプロデューサーの確保が望ましいものの、日本遺産のストーリーを紹介するガイドを育成し、観光客に対し体験価値の向上を図るとともに、育成した日本遺産マネージャーによるツアー企画や教育旅行のコーディネートが行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 成果を図る適切な指標の設定が望ましいものの、構成文化財の保存活用に向けた整備の他、日本遺産のストーリーを伝えるため、飛鳥女史紀行の読本や映像、Webサイト上での紹介ページ等を多言語で整備しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 事業化や商品化等による経済効果を測る指標の設定が望ましいものの、旅行会社と連携したモニターツアーでは、女性や外国人をターゲットとした旅行商品造成の検討を行った他、経済効果拡大のため、オンラインツアーの実施やナイトタイムも楽しめるコンテンツ開発等を行い、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産の魅力発信のため、飛鳥地域内の参加者を対象としたふるさと歴史講座を開催した他、地域の児童生徒への普及啓発として、幼稚園児から高校生に至るまで日本遺産を学べる機会が定期的に設けられており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 観光客誘致のため、日本遺産のストーリーを伝えるための多言語でのホームページの作成やYouTubeでの配信の他、Facebookやtwitterを活用した各種イベントの情報発信も行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンが詳細化されており、それらと上位計画との接続が明確化されており、また、総合的・計画的な事業推進の骨格ができています。 ■ 多様で高い質の取組が戦略的に計画され、新たな取組も行い、また、取組のターゲットが明確であり、ストーリーを感じる企画を明確に示している。 ■ 自立自走するための観光事業化の展開や、日本遺産事業を総花的な計画にせず、飛鳥女史紀行に特化した事業等の実施が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 民間事業者との連携強化が図られている。 ■ 明日香村をプロジェクトリーダーとした官民一体の組織づくりがなされている。 ■ 新たな連携先のプレイヤーを含めた組織の設計・整備や、さらなる民間事業者への実施主体の移行が望まれる。 ■ 施策KPIのより高い目標設定が望まれる。
総合評価	■ 中長期計画との連動で、推進体制や事業の骨格が明確になっている。 ■ これまで6年間の課題を解決しつつ、良い取組を継続する計画となっており、また、取組の方向が明確に示されている。 ■ 事業主体について、役割分担ができています。 ■ 有形文化財だけでなく、無形文化財もさらにストーリーに組み込むことで、付加価値を高めていくことや、さらなる事業・商品開発に繋げていくことに期待する。
評価結果	認定継続（重点支援地域）

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「総観光客数」は目標が未達の年度もあるものの、「尾道市入込観光客数」及び「外国人入込数」は目標を達成していることから、全体として目標を概ね達成している。 ■ 日本遺産事業の直接的な効果を示す指標について、構成文化財やその関連施設等の入込客数が示され、豪雨災害や新型コロナで未達の年度もあるものの、目標をおおむね達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「文化財・日本遺産講座や文化財めぐり等によるアンケート調査の【郷土に誇りを持つ人】の割合」及び「各学校での日本遺産の総合学習等への取り組みによる、日本遺産認知度」について、全体として目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産尾道に関する商品・サービス数」について、全体として目標を達成している。 ■ 日本遺産事業の直接的な効果を示す指標について、観光関連施設や日本遺産関連の旅行商品の売上が示され、全体として目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として目標を達成している。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 基礎的な取組はなされており、官民一体となった組織を設立できている。また、文化遺産パートナー登録数など、文化遺産パートナーの育成・登録の活動においても、着実に実績を上げており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 歴史文化基本構想、文化財保存活用計画、歴史的風致維持向上計画など、長期的な戦略の策定をもとにした日本遺産の活用が図られているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 文化遺産パートナー制度を事業化していくことが望ましいが、小中学校の社会科の先生へのアプローチなどを積極的に行い、学校教育に活かされる仕組みを構築しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(4) 整備	個別評価	可	■ レンタサイクルの体験で、ストーリーが伝わるのかどうかといった検証をしていくことや、車での来訪が多いことに伴う駐車場確保等の課題について今後検討することが望ましいが、ビジターセンターや案内看板の設置、サブストーリーのパネル作成などの各種取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 経済効果の把握や自主財源の確保といった視点からの取組が行われることが望ましいが、モデルルートの設定、周遊アプリの制作など、必要な取組を行っている他、グリーンスローモビリティの運行事業、レンタサイクル事業など、利用者の二次交通対策も進んでおり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 大学の教員や学生が日本遺産の調査研究等で地域の方と連携していくことが望ましいものの、大学での講義、総合学習での授業、シンポジウムの開催など、必要な取組を行っている他、文化財愛護少年団参加者数など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台が整備されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ H P 閲覧数等に課題があるものの、日本遺産 H P の制作、S N S での情報発信など、必要な取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ これまでの事業成果を踏まえた新たな方向性も示されており、構成文化財である近代建築のビジターセンターとしての活用や景観創出によるナイトタイムエコノミーの創出などに新味が見られる。 ■ 箱庭的都市の魅力をさらに伝えるために夜景や新たな建物を活かす等、強みを生かした取り組みが具体的かつ発展的に記載されている。 ■ ビジョンである「新たな尾道文化の創造」の具体的な形として、「市民が主役になれる」というキーワードが示されているものの、市民がどのような形で参画して事業推進をしていくのか具体的に例示があると良い。 ■ 自立自走の仕組みについては、観光税、環境税、駐車場料金の上乗せなど、他地域の事例も踏まえて検討されることが望ましい。また、民間事業者が自発的にコンテンツを造成していく環境づくりに取り組むことが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 行政主体の取組であるが、行政としての役割を果たしており、評価したい。 ■ DMO、商工会、地域事業者との連携など、民間主導の体制づくりが一定程度機能している。 ■ 文化遺産パートナーでは新たな取り組みとして、旅行会社等と連携した実際のツアーガイド養成を始めたが、今後は富裕層向けツアーに対応した質の高いガイドの創出や新事業創造の事業主体となる活動が期待される。 ■ 観光事業化促進に向けた、更なる取り組みの展開が期待される。
総合評価	■ 新規事業について、尾道の強み、リソースを理解した上で、これまで作ってきた土台を活かした戦略的取り組みである。 ■ 補助金等の活用による歴史資源の保全活用は進められているが、日本遺産としての自走型の展開が課題。 ■ 尾道らしい民間事業者との関わり方の模索が必要。 ■ 計画の見える化、事業の具体化を市民に向けてもわかりやすく示すことを期待。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ．計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「四国4県の宿泊を伴う観光客数」に関しては目標を達成している。 ■ 「遍路人数」の経年的な推移に関し、構成文化財へのお遍路さん訪問数である「ロープウェイの輸送実人員」については減少傾向が続く半面、歩き遍路の実数である「遍路大使任命数」については、横ばいで推移し、特に外国人歩き遍路数は顕著に増加している実態が把握できた。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「四国遍路に誇りを感じる住民の割合」について、指標の把握がなされた範囲で目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「『日本遺産』を冠した、四国遍路がテーマの旅行商品を企画する事業者数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ クラウドファンディングの継続について具体的な方策を検討することが望ましいものの、協議会をプロジェクトごとに組成し、経済的に自走できる仕組みが一定程度構築されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(2) 戦略立案	個別評価	不可	■ 各県においては文化財保存活用大綱などに日本遺産の取組を明示し、保存・活用に取り組んでいる一方、上位計画等への関連付けが弱く、また、「日本遺産」に関する四国全体のビジョンと戦略立案が十分に示されていないことから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組に対して十分な実施が出来ていない。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーの確保や、地域プレイヤーの定量的な把握と見える化が図られることが望ましいものの、日本遺産に関するガイド団体などの地域プレイヤーが一定数活動しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 四国全体を俯瞰した環境整備や維持管理の計画づくりと現場の声を反映する仕組みが構築されることが望ましいものの、説明板の設置、ベンチやトイレの整備など、必要な取組を行っている他、遺構・文献調査なども行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ DMOが日本遺産に関する四国全体のマーケティング機能を担うことが望ましいものの、航空会社とのツアー連携、サイクリング等具体的なターゲットを定めた戦略も実行しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 取組成果の実態把握、見える化を進めていくことや、「お遍路文化」の地域内への浸透を充実させていくことが望ましいものの、高校生スピーチコンテスト、小学生等の「札所寺院」見学授業、小中学生向けパンフレットなど、必要な取組が行われ、地域における高い認知度が計測されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ HPのアクセス解析も行い、アクセスの場所や属性などの情報も把握していくことが望ましいものの、多言語でのパンフレットやホームページの作成等に取り組んでおり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンが明確で、自立的な運営を図ろうとする取組内容が評価できる。 ■ 付加価値をさらに高めるための、農業体験等とSDG s とのかけ合わせによる誘客促進・受け入れ体制整備の取組が評価できる。 ■ マーケティングの視点が弱いため、DMOを中心としたマーケティングの戦略立案を明確にしていけることが必要。 ■ 目標値について、遍路数を設定するなど、ビジョンと対応して検討が必要。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 協議会を構成する四県の一体的推進が可能な体制となっている。 ■ 4 県の輪番を改善し、四国全体でリーダーシップをとる体制の構築や、より積極的な民間活用の検討が必要。 ■ 地域における観光消費額等を把握できる指標を設定し、分析・反映していくことが課題。
総合評価	■ シリアル型のモデルとなる地域であり、一層の協働が図られることが期待される。 ■ 壮大な遍路道の維持やインバウンド促進等のためのW i - F i 、トイレ、多言語看板等々の負担が大きく、これらを維持するための新たな事業スキームの構築が期待される。 ■ 6 年間の取組をベースに発展のスキームを描くこと、ビジョンに対するPDCAの落とし込みを行い展開を図ることが課題。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「壱岐・対馬・五島への外国人延べ宿泊数」は大きく増加し、目標を達成している。 ■ 「壱岐・対馬・五島への観光客延べ数」は、韓国からの訪日観光客数が全国的に前年比で大きく減少していたことも影響し、令和元年度の目標達成に至らなかったことにやむを得ない理由がある。なお、対馬以外の平成30年度から令和元年度の観光客延べ数推移は、いずれも順調に伸びている。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「県民アンケートの『地域の歴史文化に対して誇りや愛着を感じる』地域住民の割合」は、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産の認定ストーリーや、構成文化財を活用した旅行商品の案出件数」は変動はあるものの概ね目標は達成している。 ■ なお日本遺産認定当初には日本遺産への協力団体数に係る目標値を設定していなかったが、評価指標以外のデータとして、法人パートナーはH27→R2で10社増加していることが示された。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね、設定した「計画評価指標」ごとの目標値について、直近の実績値が上回っている、又は、当該目標値を下回るものがあることにやむを得ない理由がある。

II. 取組内容に関する評価

		評価案	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ アドバイザー等を交えた座談会の頻度を高めることや、自主財源の更なる確保が望ましいものの、国境の島アドバイザーの選任、アドバイザー等を交えた座談会の開催、民間主体の体制構築、商品開発による自主財源の確保等の取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 日本遺産事業の取組のベースとなるコンセプトに直結する戦略及び事業立案が望ましいものの、県の総合計画及び各市町の総合計画等に、日本遺産事業を位置付け取組を推進している他、積極的な活動を行っている先進地への視察・意見交換等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域を主導的にリードする地域プロデューサーの確保が望ましいものの、イベント等で連携した地域プロデューサーやプレーヤーの発掘・育成の他、民間企業と連携したガイド研修、外国人を対象としたガイド研修等の取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 地域住民等を巻き込んだ現地での日本遺産ストーリーの更なる発信と浸透が図られる整備の実施が望ましいものの、日本遺産全体の情報を総合的に発信する旅客船ターミナルでのギャラリー整備等の取組を行っている他、日本遺産全体の情報を総合的・体系的に発信する拠点の整備もされており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 日本遺産としての経済効果を測定するための適切な指標の設定と、造成商品の更なる高付加価値化が望ましいものの、壱岐・対馬・五島周遊スタンプラリーによる周遊促進の他、民間交通事業者によるツアー造成や長崎めぐり旅ビューローによる旅行商品の造成、歴史好きの女性を対象にモニターツアーを実施、関連商品開発等の取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 地域住民等への更なる地域に対する愛着の浸透や、民間主導の学習機会の増加が望ましいものの、楽しみながら日本遺産を学習できる冊子を使った授業や現地見学等のふるさと教育の他、文化財と国境の島のストーリーの普及を目的としたトレッキング体験会の開催、地元住民向けツアーの開催等、学生向け・民間向け・産学官を巻き込んだ取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ホームページ・SNSなどの継続的・積極的な情報発信の強化が望ましいものの、ホームページ（日・英・中・韓）及び各支部のSNSを通じた「国境の島」に係る情報発信が継続して行われている他、幅広い年代に興味を持ってもらうためのトリック映像を用いたPR映像の制作、公共広報媒体等を使ったPR、出前講座・出前体験の実施、交通機関での広告等の取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンが明確で、取り組みについてもカスタマー視点を取り入れたものとなっている。 ■ 「国境の島」としての共通の歴史や地理的特性を活かした体系的かつ具体的な地域計画になっている。 ■ 国境の島が紡いだ2300年の歴史・文化の保存・活用や、トレッキングコースの整備などの事業、それらを担う各種ガイドや地域プロデューサーの育成などが図られる計画となっている。 ■ 経済効果の指標化や、自主財源の確保に関するより積極的な取組など、自立自走に向けた事業の強化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 国境の島プロジェクトのリーダー、推進体制（連絡協議会）、アドバイザーなどの推進体制がよくできている。 ■ DMO、商工会、交通事業者、地域事業者等が参画した推進体制が整備されている。 ■ 日本遺産事業による直接的な効果を示す指標設定及び事業効果の把握が望ましい。
総合評価	■ 各地域ごとに日本遺産を活かした取り組み内容となっている。 ■ 事業理念、計画・推進体制共にしっかりとしており、次の3年間でさらに具体的な成果に繋がることが期待できる。
評価結果	認定継続（重点支援地域）

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「人吉球磨地域の観光客数」は、平成29年までは堅調に推移し、概ね目標を達成した。 ■ 一方、平成30年以降は豪雨による災害発生により低水準に推移（H29 約334万人 ⇒ H30 約182万人 ⇒ R1 約180万人 ⇒ R2 約96万人）し、特に令和2年7月の球磨川氾濫洪水災害においては、集客の中心であった国宝青井阿蘇神社等の構成文化財をはじめ宿泊施設、鉄道等が甚大な被害を受け、復旧を余儀なくされたという、目標達成に至らなかったやむを得ない理由がある。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 『住民意識調査の「人吉市内の歴史や伝統文化について興味があるか」に対する「興味がある」の割合』は、単年度の提示（H30 44％）に留まる上、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「着地型プログラム利用者数」は、平成30年度の災害発生以前も実績をあげられておらず、目標を達成していない。
(4) その他	不可	■ 「日本遺産ロゴ、日本遺産人吉球磨のロゴの活用申請数の累計（自治体・協議会構成団体以外）」は、目標を達成していない。
総合評価	不可	■ 平成30年以降の豪雨による災害発生、特に令和2年7月の球磨川氾濫洪水災害による影響は認められるものの、同災害発生以前も、目標を達成していないことや、評価指標に対する実績値が断片的に提示されているに留まる項目が散見される。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 協議会の収益基盤の拡大による自立収益化の推進が望ましいものの、「人吉球磨日本遺産活用協議会」や「人吉球磨観光地域づくり協議会」による相互連携体制を確立している他、首長級・課長級といった階層単位での定期協議を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ PDCAサイクルの確立に不十分な点があるものの、構成市町村共通の戦略として、日本遺産を核とした環境整備コンセプトや、構成文化財の観光活用方針を定めた上で、それらを包含する「人吉球磨定住自立圏共生ビジョン」を掲げ、これらの戦略に則り、ワーキンググループ活動を実施して訴求力ある地域観光資源の特定などを行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 日本遺産事業を俯瞰的に推進する地域プロデューサーの確保が望ましいものの、日本遺産のストーリーを紹介する有償ガイドを育成し、観光客に対する体験価値の向上を図るとともに、民間組合を中心とした球磨焼酎案内人の育成・登録を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 令和2年7月の球磨川氾濫洪水災害からの復旧過程にあるものの、有人受付対応のエントランスセンターや、広域に点在する日本遺産の所在を示す標識看板等を整備・設置している。また、ストーリーを伝える構成文化財の継続的な充実を図っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 民間事業者との更なる連携強化が望ましいものの、「人吉球磨観光地域づくり協議会」におけるワーキンググループ活動を起点にした周遊ルート開発と既存観光サービス連動化を行った他、滞在時間と消費額を高める球磨川くんだりや電動アシスト自転車サイクリングツアー等の体験・周遊型コンテンツの造成を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ リーフレットやステッカーによる地域住民への啓発、住民・民間の広範な参集を促した「日本遺産フォーラムin人吉球磨」の開催、地元高校への球磨地域学講座の提供等を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ SNSによる継続的・積極的な情報発信の強化が望ましいものの、ホームページやガイド観光アプリの整備・随時更新を行った他、主要構成文化財の現地案内標識に掲載されたQRコードと同一観光アプリの連動化により、周遊を行う来訪者目線での情報発信を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	■ 令和2年7月の球磨川氾濫洪水災害からの復旧過程にあるものの、全体として概ね、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施ができています。

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 「復興」と「振興」を重ね合わせたビジョンとなっている。 ■ 文化財の災害復旧過程自体を文化観光戦略のベースに置き、復旧を見越した取組やコンテンツ化が合わせて計画されている。 ■ 災害からの復興過程において構成市町村間共通の将来像を明確化するべく、ビジョンの更なる具体化や、経済効果の創出に向けた民間事業者等との連携方策の更なる具体化が望ましい。 ■ 目標設定について、取組内容との整合性や実現可能性を踏まえ、妥当性を検証することが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 保全面と観光活用面を推進する組織をそれぞれ明確化し、両輪で推進していく体制となっている。 ■ 「人吉球磨観光地域づくり協議会」のDMO登録を通じた観光推進の中核機能創出・強化が計画されているとともに、行政、観光協会、民間事業者、金融機関などとの連携が図られている。 ■ 日本遺産事業による直接的な効果を把握すべく、指標の設定・捕捉を行うことが望ましい。
総合評価	■ 災害復旧の過程を新たな価値創出と地域文化創造の機会にしようとする計画となっている。 ■ ビジョンの実現に向け、日本遺産とそのストーリーに対する地域の誇りを、より強化・醸成することにつながる取組を推進することが望ましい。
評価結果	認定継続